

2024年度 メリー★ポピinz 豊洲ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

園目標・・・【園に携わるすべての人が『幸せ』を感じられる園】

2024年度は『幸せ』をキーワードに園運営・保育を行ってきた。

子どもたちの幸せ・最善を探り追求すること、保護者や保育者が幸せを感じながら子育てを行えるようすること。

この子にとっての幸せとは何か？

一緒に子育てを行う保護者にとっての幸せとは何か？

一緒に働くスタッフにとっての幸せとは何か？

そういったことをスタッフ1人ひとりが常に考えながら過ごした1年であった。

スタッフ1人ひとりが自らの保育を振り返ることはもちろんあるが、記録を持ち寄りチームで対話を通して子ども理解に努めることで、より多面的な角度から子ども1人ひとりの幸せにアプローチできたのではないかと思う。

また、保護者に対しては重点施策もそうだが、日々のお迎え対応でのコミュニケーションや保護者参加行事を通して幸せを感じていただくことができたのではないかと感じている。運営委員会や利用者アンケート等でいただいたコメントを通してそのように感じている。

しかし、園目標に掲げた『すべての人』が幸せを感じられたかどうかはわからない。すべての人に幸せを感じていただくには1人ひとりを深く理解すること、理解しようと努めることが重要であるため、次年度以降も引き続き取り組んでいく。

重点として掲げた①生活力の体得②10の姿の体得③子ども自らがいつでも経験を選び取ることができ物的環境の設定・保育環境の充実④職場環境の充実⑤子育て支援に関しては、以下、〈1〉～〈7〉で振り返ることとする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きるための基礎を育む (寝て、起きて、食べて、動く=歩く・探索・遊ぶ・労働)
	実践結果	まずは家庭との連携を密に取り、個別に配慮した保育を展開しつつ、子ども一人ひとりが心地よく過ごせる生活リズムを確立していった。 日中は日課・基本活動に全スタッフがこだわりをもって取り組み、午前中の貴重な時間をめいっぱい戸外で体を動かしながら過ごせるように努めた。 食事・遊びに意欲的に向かう姿が多く見られ、基本的な、『寝て、起きて、食べて、動く』のサイクルが個々にしっかりと根付いた。
	次年度方向性	日課・基本活動の意義を全スタッフが深く理解し、こだわりをもって取り組んでいく。

2	計画・ねらい	愛着関係（特定の大人との間に結ばれる情緒的な絆）を育む
	実践結果	すべての大人がすべての子どもを見守り、子どもが必要としている保育者を自分自身で求められるようにした。求められた保育者はしっかりとその気持ちを受け止め、信頼関係を築いていくように努めた。 子どもたちは保育者を心の拠り所にし、好奇心旺盛に様々なことにチャレンジしていく姿が見られた。
	次年度方向性	保育の基盤となる部分のため、引き続き全スタッフが意識し、その質を向上させていく。
3	計画・ねらい	10の姿（非認知能力）の基礎を育む
	実践結果	2.『愛着関係を育む』の実践に加え、子どもを肯定的に捉え、子どもの「やりたい」や探索活動を保障する姿勢を大切にした。その活動や行動、学びのプロセスを大切に捉え、子どもはどういった力を伸ばしたいと思っているのか、どういった力が伸びているのかを捉えられるように努めた。 そこで捉えた子どもの姿を計画に反映し日々の保育を展開することで、10の姿につながる、基盤となる力が養われていったと感じる。
	次年度方向性	次年度も345歳児が定員数で在籍するため、10の姿を意識しながら、345歳児にとって必要な保育の質を向上させていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立つ
	実践結果	継続して、スタッフ一人ひとりが接遇力の向上に努め、保護者との信頼関係の構築・心地の良い場の構築に取り組んだ。 また、お迎え対応時には、保護者の心情を拾うため、自ら話しかけ時間を持って聞き取りをし、保護者は我々に何を求めているのかを理解するよう努めた。
	次年度方向性	継続して取り組み、常に相手の気持ちに寄り添い、最高に幸せと思っていただけるように努める。
2	計画・ねらい	子どもを「どう理解し、どう関わるか」といった保育者の専門性を活かした支援に努める
	実践結果	園内研修や独学、日々の保育の振り返りを通して発達の理解や知識の習得に努め、連絡帳やタイムライン、お迎え対応時などで支援することができた。一方で、専門性を活かした支援に努める中でも、保護者が求めていることや家庭環境などへの理解は必要であった。最終的に保護者の判断を尊重するうえでは、「保育園でこのようにアプローチをしていますがご家庭ではこうしてみてはどうですか?」といった園と家庭の環境の違いや園と家庭での子どもの姿に配慮した支援が必要だと感じた。
	次年度方向性	園と家庭の環境の違いや園と家庭での子どもの姿に配慮した支援を行っていく。

3	計画・ねらい	保護者が穏やかで安定して精神的に健康な状態で子育てができるように支援する
	実践結果	1. 『保護者の立場に立つ』の実践結果に加え、保護者参加行事を通して、子ども同士のやり取りの様子や園での姿を伝えたり、子どもの成長を皆で喜び合ったりできるように努めた。 また、家庭のニーズに合わせて、登園時間や延長保育などに柔軟に対応した。
	次年度方向性	継続して取り組み、加えて、保護者が活躍できる場も作っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ビジター利用の子どもに対する配慮の行き届いた柔軟な保育を展開する
	実践結果	継続して、保育を必要としている家庭をしっかりと受け入れること、そして、各家庭のニーズに合わせて支援を行っていくことに努めた。 ビジター利用児に対しては、保護者と密に連携し、家庭での生活や生活のリズムへ配慮した保育を展開することで、子どもがマンスリー児と生活・遊びを共にしながら安心して過ごす姿が見られた。 特に食の面では支援を必要とする家庭・子どもが多く、家庭での様子や食の進み具合、形態等を丁寧に聞き取り、保護者の願いも聞き入れながら、子ども一人ひとりに合った、よりよい食への支援に努めた。
	次年度方向性	ニーズが高いため、引き続き積極的な受け入れを行っていき、状況に応じてマンスリーも提案していく。
2	計画・ねらい	地域子育て家庭のつながりの場となる
	実践結果	青空保育、子育てサロン、どろんこ祭りを実施し、地域の方々がつながる場となるように努めた。どろんこ祭りには多くの地域の方に参加していただき、人と人とのつながりの大切さ・必要さや子育ての楽しさ・嬉しさを感じていただけたのではないかと思う。 一方で、定期開催の青空保育や子育てサロンへの参加人数は課題が残った。随時受付をしている見学はつながりの場となりうるため、青空保育や子育てサロンの宣伝を積極的に行ったり、並行して育児相談や育児講座を行ったりするなど、課題解決に努めていきたい。
	次年度方向性	見学を一つのきっかけにつながりを作ることができるため、見学時のアプローチやイベントの宣伝等を積極的に行っていく。
3	計画・ねらい	保育所保育の専門性を活かした子育て支援を行う
	実践結果	支援の心構えや内容の吟味、育児相談・育児講座の準備はできていたが、広報や集客に苦労し、支援を届けることができなかつた。待っているだけでは支援ができないため、園から積極的に持ち掛ける支援を行っていきたい。

	次年度方向性	育児講座・育児相談、保育所体験、出産を迎える親の体験学習を積極的に行っていく。
--	--------	---

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「対話」を通じて、園全体で保育を振り返る
	実践結果	<p>園会議では参加者全員が必ず発言することをルールに、対話を通じて保育を振り返ることに努めた。</p> <p>多くは園内研修でのディスカッションや個々の記録の共有であったが、その中で、互いの意見を伝え合い、よりよい保育に向けて新たな計画を立てることができた。また、多角的な視点から保育や支援を考えることができた。</p> <p>「対話」することで、自分の思いを伝える力や相手の思いを聴く力、アウトプット力等、スタッフの成長につながった。</p>
	次年度方向性	対話を通じて日常的に振り返りができるような関係性を築いていく。
2	計画・ねらい	チームで「協働」して課題解決をする
	実践結果	<p>園運営の課題・保育の課題は全スタッフで共有し、スタッフ一人ひとりが当事者意識をもって、同じ目的のために、対等な立場で協力して取り組めるように努めた。</p> <p>そのようにすることで、個々の苦手を補い、互いの強みを活かし、学び合いながらよりよい園運営・保育に取り組むことができた。</p>
	次年度方向性	スタッフ自らが課題を見つけ、それを共有し、よりよい園運営・保育に共同して取り組んでいけるようにする。
3	計画・ねらい	「主体的」に学び、行動する
	実践結果	<p>知識のアップデートという面では保育士等キャリアアップ研修や園内研修を通して学ぶ姿勢は感じることができた。しかし、「主体的」に学んでいるかというと必ずしもそうとは限らない。</p> <p>日々の自己評価での学びは行えているが、教育者として幅広い学びが必要となるため、次年度以降も自ら進んで互いに学び合える風土づくりに努めていきたい。</p>
	次年度方向性	自ら進んで互いに学び合える風土づくりに努めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食（食材）を有効活用する
	実践結果	調理残渣を減らすため、皮付き調理や芯の利用、出汁をとる昆布や鰹節の有効活用に努めた。

		食べられない部分は生ごみ処理剤でバケツコンポストにて分解を試みたが、取り組み方法や管理方法に多くの課題が残った。
	次年度方向性	継続して取り組む。 バケツコンポストに再挑戦し、試行錯誤する。
2	計画・ねらい	園児・スタッフが協同で食材を加工する
	実践結果	梅干し、トマトケチャップ、みかんジャム、味噌、あんこ作りにスタッフと園児が協同して取り組むことができた。 栄養士含め全スタッフで取り組む姿を見せて子どもたちの興味・関心、意欲を引き出し、子どもたちも加工の工程を学びながら集中して取り組んでいた。
	次年度方向性	単発で終わらせずに、日常の中で行つていけるようにする。
3	計画・ねらい	園児・スタッフが協同で畠仕事や生き物の世話をする
	実践結果	畠仕事に関しては、スタッフは計画通り畠仕事に取り組めるようにスケジュール等の管理に努め、畠づくり→苗植え→水やり・草抜き→収穫→料理→食べるまでの一連の流れを子どもとともに取り組むことができた。 子どもが『自分でできることは自分でやる』をねらいの一つとして、子どもたちは道具を自分の力で扱えている喜びを感じながら畠づくりや水やりに夢中で取り組むことができていた。 生き物の世話に関しては、金魚のえさやりや水槽の掃除を保育者とともに行った。月に一回移動保育で訪れる北千住どろんこ保育園ではヤギやニワトリの世話を体験することができた。
	次年度方向性	農業計画に沿って畠仕事をやりきる。 畠仕事や生き物の世話をする意義を全スタッフが深く理解し、こだわりをもって取り組む。
4	計画・ねらい	木に親しむ
	実践結果	日々の散歩や戸外活動を通して子どもたちが木（自然）に親しみ持てるような関わりに努めた。散歩中に子どもたちが自然物を目の前に足を止めた時には一緒に発見を喜んだり、自然物に触れてみたりした。また、広場や森林の中では子どもたちが思う存分、ありのままに木（自然）とふれあえるように見守った。 広場での活動時には木材の色や形、手触り等の違いを楽しみながら様々な木材に触れられるように制作活動を展開することもできた。自然物を園内や家庭に持ち帰る姿も見られ、親しみを感じている様子が伝わってきた。 戸外から持ち帰った木材を室内に配置する環境設定を計画していたが、乳児も一緒に生活する中で課題や制約も多くこちらは実行に移すことができなかった。次年度は全スタッフでアイディアを持ち寄り実行に移していく。
	次年度方向性	子どもも大人も自然と向き合う時間を大切にしていく。

〈6〉保育環境（物的環境・人的環境）の充実

1	計画・ねらい	子どもにとって安心・安全な保育者になる
	実践結果	<p>子どもの姿の共有や記録の共有を通して、子どものその行為の裏側にはどのような心情があるのか等、スタッフ一人ひとりが深く考察し、子どもの欲求を『的確に』満たした応答的なかかわりと子どもの気持ちを受容した共感的なかかわりを行えるように努めた。</p> <p>また、集団全体への配慮にも努め、皆が心地よく過ごせる活動グループ編成を行い、すべての大人がすべての子どもを見守り、漏れなく子どもを受け止められる体制を構築した。</p> <p>子どもたちは安心・安全の中で、様々なことに意欲的に取り組み、挑戦しようとする姿が見られた。</p>
	次年度方向性	保育の基盤となる部分のため、引き続き全スタッフが意識し、その質を向上させていく。
2	計画・ねらい	子どもが求めていることは何かを見極めて関わる
	実践結果	<p>1.『子どもにとって安心・安全な保育者になる』の実践に加え、『子ども理解』の園内研修を行い、関わり方を深めた。</p> <p>子どもたちには発達に伴う感情の揺れ動きは見られたが、保育者に欲求や気持ちを満たしてもらうことで、安定して過ごす姿が見られた。</p>
	次年度方向性	子どもの声にしっかりと聴き入る。
3	計画・ねらい	様々なことやものに関心や好奇心を広げていけるような環境を構築する
	実践結果	<p>一日の大半を過ごす戸外活動では、子どもたちの歩ける距離に応じて活動範囲を広げ、豊かな環境や文化、社会に会えるように努めながら子どもたちの興味・関心を引き出した。</p> <p>散歩はただ目的地に向かう手段とならないように、子どもたちとの発見や「これはなんだろう？」の出会いに共に喜んだり共感したりできるように努めた。</p> <p>日々の散歩を通して、子どもたちの関心や好奇心を広げていくことができたのではないかと感じる。</p>
	次年度方向性	物的環境はもちろんだが、関心や好奇心を広げていけるような、スタッフの関わり・人的環境の質も向上させていく。
4	計画・ねらい	子どもたちの興味・関心、学びに沿った環境を構築する
	実践結果	<p>日々の保育の振り返りや記録『子どもの姿を捉えて』『物とのかかわり』を通して定期的に環境見直しを行い、よりよい物的環境構築に努めた。</p> <p>加えて、子どもの発達や保育者の関わり方を考慮することで子どもが集中して遊びに取り組む姿が見られた。</p> <p>子どもが夢中で遊ぶ姿はまさに学びの姿であった。</p>
	次年度方向性	全スタッフが子どもの姿をよく観察し、捉え、それに沿った環境を提案・構築していく。

〈7〉職場環境の充実

1	計画・ねらい	心理的安全性の高い風土を育む
	実践結果	気持ちの良い挨拶、何気ない会話、「ありがとう」を伝え感謝をつなげる、挑戦を応援する、失敗を咎めない、得意を活かす、対話的な園内研修等を意識することで心理的安全性を高めた。 離職率は低減・人材が定着し、個人（学び・仕事への姿勢等）やチーム（適正な園運営・保育の質）により影響が見られた。
	次年度方向性	全スタッフが気持ちよく過ごし、様々なことに挑戦できるようにしていく。
2	計画・ねらい	意見の違いを賞賛する文化を育む
	実践結果	相手を否定しない、相手の立場や背景を理解しようと努める、対話的な園内研修を通して、意見の違いを賞賛する文化の構築に努めた。 その「人」ではなく、その「意見」を称え、異なる意見が出たことを互いに喜び合うことで、多角的な視点から保育を振り返ることができた。 個人のパフォーマンスの向上につながったように感じる。
	次年度方向性	子どもたちのために、互いの意見を伝えあい、よりよい保育に取り組んでいけるようにしていく。
3	計画・ねらい	自ら目標を設定して行動できる起業家精神を育む
	実践結果	全スタッフへ組織のミッションやビジョンを共有し、その中で個人に求めることやできることを明確にし、一年間の目標を立てて取り組んできた。 目標設定は施設長とともに行ったが、目標達成までの計画や取り組み内容は個々に任せることで一人ひとりが日々考えながら行動できたように感じる。 日々の会話や中間面談で取り組み内容の進捗確認を行い、必要に応じてアドバイスや軌道修正を行うことで、目標達成へと至った。
	次年度方向性	日々に小さな目標を設定し、その目標達成を積み重ねていけるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	42人	66人	72人	18人	6人	0人	204人
年度後半：	42人	72人	66人	18人	6人	0人	204人

10~3月									
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	17人	17人	28人	34人	37人	38人	51人	52人	48人	54人	43人	43人	445人
うち0歳児	7人	7人	13人	23人	28人	31人	35人	37人	40人	33人	31人	31人	316人

(解説) 基本時間 8時00分～18時00分 延長保育時間 18時00分～20時00分

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	18人	19人	23人	23人	24人	24人	27人	28人	29人	30人	31人	31人	304人
うち0歳児	1人	1人	3人	3人	4人	4人	6人	7人	8人	9人	10人	10人	66人

(解説)

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	0人
--------	-----	----	-----	----	-----	----	------	----

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・人権チェック ・虐待防止研修 ・保育の質向上に関わる勉強会

給食運営会議	月1回	食育振り返り・献立の振り返り・離乳食の共有・子どもの様子
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の分析
ケース会議	月1回	対象園児なしの為、子どもの姿の特記事項共有の場として活用

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	チェックリストを用いて衛生点検・保育室の環境整備に努めた。都度中心となって、掃除チェックリストの見直し・改善を行い、園の清潔維持に努めた。
安全対策係	ヒヤリハットやインシデント、事故記録の共有・分析を行い、事故防止、再発防止に努めた。また、系列園の事故報告の傾向を探り、対策を練ることで自園の事故防止へとつなげた。
防火管理者	毎月避難訓練を実施し、災害時（地震・火災・水害）の保育者間の連携を深めた。また、昼礼や園会議にて振り返りを実施し、災害時の対応への理解を深めた。
食品衛生管理係	調理・調乳など調理施設の衛生管理を行い、安全な食事を提供できるように努めた。また、全スタッフに向けて研修を実施した。
畠係	畠仕事の年間計画をスタッフに周知し、計画的に活動できるように努めた。また、子どもと共に、栽培物の管理に努めた。
生き物係	生き物の世話（餌やり）や水槽の清掃などを子どもと共にを行い、子

	どもの興味・関心を引き出した。
--	-----------------

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	集客に力を入れたこともあり、多くの地域の方にご参加いただけた。家庭同士のつながりの場になることができた。
ちきんえっぐ係	地域子育て支援の内容企画立案やちきんえっぐだよりの作成に努めた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行動や欲求に適切に応え、特定の大人との情緒的な絆の形成に努めた。 ・子どもの姿の共有や記録の共有を通して、子どものその行為の裏側にはどのような心情があるのか等、スタッフ一人ひとりが深く考察し、子どもの欲求を『的確に』満たした応答的なかかわりと子どもの気持ちを受容した共感的なかかわりを行えるように努めた。 <p>日中は日課・基本活動に全スタッフがこだわりをもって取り組み、午前中の貴重な時間をめいっぱい戸外で体を動かしながら過ごせるように努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の大半を過ごす戸外活動では、子どもたちの歩ける距離に応じて活動範囲を広げ、豊かな環境や文化、社会に会えるように努めながら子どもたちの興味・関心を引き出した。
保育参加	4~3月まで 合計0名 (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4~3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)
運営委員会	運営委員会を6月28日と11月22日にメリーグーリー★ポピングス 豊洲ルームにて実施し、参加した保護者2名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	楽しい食事を通して、健康な心と体を育む
	実践結果	0歳児～保育者まで集団で一緒に食べる、コミュニケーションを楽しみながら食べる、自分たちで育て収穫した食材を食べる、自分でできることは自分でして食べる、食べられる量を自分で決めて食べる等を通して、楽しい食事の時間を過ごすことができ、健康な心と体を育むことにつながった。
	次年度方向性	食事を通してどのような心や力が育まれているのかを深く探っていく。
2	計画・ねらい	「お腹空いた」「食べたい」と、自分でその感覚を感じ取り、自ら食事に向かえるようにする
	実践結果	散歩9時出発、日の出ている午前中の貴重な時間を目一杯戸外で過ごすことにこだわりをもって取り組み、子どもたちの食への意欲を引き出した。加えて、『食べたい時に食べる』を意識し環境を設定することで、子ども自ら食卓に向かう姿が見られた。
	次年度方向性	日課・基本活動の意義を全スタッフが深く理解し、こだわりをもって取り組んでいく。
3	計画・ねらい	0歳児～保育者まで、集団で一緒に食べることで、食べる意欲や食べる方法など、食の営みを築いていけるようにする
	実践結果	スタッフは全員一緒にとはいかなかったが、代わる代わる子どもたちと一緒に食卓に着き、『一緒に食べる』を通年で行うことができた。そうすることで、普段は聞き逃してしまっていたかもしれない子どもたちのつぶやきや食の進み具合、食具の使い方等を傍でしっかりと捉え、関わりをもつことができた。何より子どもたちと食の『楽しい』『おいしい』を共有できたことが一番の収穫であった。 また、年末には全員一緒に食べる日を企画し、1年を振り返りながら食と共にできたことは子どもたちにとってもスタッフにとってもよい時間となつた。
	次年度方向性	全スタッフが集団で一緒に食べる意義を理解し、ねらいをもって食事の時間を過ごせるようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日/11月21日に実施
歯科検診	実施なし
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月、12月に保育室にて手洗い指導を実施 ② 6月、1月に保育室にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし その他、救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、10名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み

	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月20日、11月21日 歯科健診 実施なし
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月19日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの主体性を保障するために保育者の主体性と連携を強化する
	実践結果	リーダーシップや自分の思いを伝えるコミュニケーションに課題があったため、まずは誰が務めてもできるようにシステム作りを行った。 子どもたちが主体的に動けるように散歩前後の流れを明確にし、保育者の立ち位置もある程度定めた。また、チャットを活用し、互いの役割を明確にすることでスムーズに連携できるようにした。そのようにすることでスタッフも子どもも迷ったり戸惑ったりすることが減り、その中で主体的に行動する姿が増えた。
	次年度方向性	リーダーシップやコミュニケーション能力を向上させていく。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境を保障する
	実践結果	子どもの成長・発達、興味・関心に応じて物的環境の再構築に努めることができた。 子どもが自ら玩具や活動を選択して遊びを展開することができていたが、表現（制作）ゾーンの構築や在籍人数が少ない345歳児に必要な物的環境の構築には課題が残った為、次年度も取り組み改善していく。
	次年度方向性	継続して取り組み、表現（制作）ゾーンの構築や在籍人数が少ない345歳児に必要な物的環境の構築に努めていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿をよく（善く）捉え、子どもにとって必要な生活や遊びの環境を整え、働きかけていく
	実践結果	個人による日々の保育の振り返りに加え、園独自の保育記録『生活力を育む』『子どもの姿を捉えて』『物とのかかわり』を通して、よりより物的・人的環境の設定に努めることができた。 また、保育記録を全スタッフと共有し、計画に反映することで、子どもにとって必要な生活や遊びの環境設定に園全体で取り組むことができた。
	次年度方向性	全スタッフが子どもの姿をよく観察し、捉え、それに沿った環境を提案・構築していく。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具の設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	月1回の避難訓練実施と実施後の振り返りを行うことで、災害時に各スタッフが落ち着いて行動できるように努めた。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練を実施し、施設の特徴を理解したうえでの最善の対応方法を探った。
3	実践結果	4月・7月・10月・1月の事故防止チェックを基に、子どもが安心・安全に過ごせる環境の見直しと構築を行った。
4	実践結果	4月・7月・10月・1月に設備点検チェックを実施し、安全に努め、破損や問題のある箇所が見つかった際は、迅速に対応した。
5	実践結果	事故防止委員会にて自園のヒヤリハットやインシデントに関して共有、分析を行い、事故防止につなげた。また、事故が起きた際は、都度、緊急事故防止委員会を開催し、再発防止に努めた。
6	実践結果	タイマーを用いた5分おきの4点チェックを確実に実施し、睡眠時の安全に努めた。
7	実践結果	東京都環境局による「光化学スモッグ注意報等のメール送信」の登録を行い、発令・解除の緊急時情報を取得し、対策を講じた。
8	実践結果	施設長が午前中の散歩に同行し、公園や散歩ルートの危険個所の確認や子どもの見失いの防止等に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の振り返り

継続して、次世代育成の観点・スタッフ育成の観点から積極的な受入を行った。

スタッフの受け入れる側の心構えも身についてきており、スタッフ1人ひとりがおもてなしの心と主体性をもって中高生との関わりをもつことができていた。中高生は適度な緊張感の中でも保育の楽しさや面白さを感じることができたのではないかと思う。

中高生、スタッフ、双方にとってとても貴重な学びの機会になったのではないかと感じる。

〈2〉 実習生の受入

受入なし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月22日	東洋英和女学院 高等部	1人
8月7~8日	中村高等学校	2人
8月7~8日	晴海総合高校	2人
8月19~20日	中村高等学校	1人
8月19~20日	晴海総合高校	1人
11月20~21日	深川第五中学校	2人
1月7日	昭和第一高等学校	2人
2月6日~7日	第三商業高等学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 10名	17日 9名	21日 9名	19日 9名	23日 9名	20日 8名	18日 8名	29日 8名	20日 8名	24日 9名	21日 9名	21日 9名
保育の質向上研修	19日 10名	17日 9名	21日 9名	19日 9名	23日 9名	20日 8名	18日 8名	29日 8名	20日 8名	24日 9名	21日 9名	21日 9名
虐待防止研修	19日 10名	17日 9名	21日 9名	19日 9名	23日 9名	20日 8名	18日 8名	29日 8名	20日 8名	24日 9名	21日 9名	21日 9名

〈2〉外部研修への出席

外部研修への参加なし（どろんこ会グループ主催のキャリアアップ研修出席あり）

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名

施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加なし											
デジマクインターンシップ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

子どもの地域の中での直接的な体験を広げていけるように、まずは活動範囲を拡大し、その中で地域資源を有効活用していくことで、新たな地域交流の場を提供することができた。子どもの体験という面では方針通りに取り組むことができたのではないかと感じている。引き続き、子どもにとって必要な体験の場を提供できるようにしていきたい。

一方で地域家庭への支援という面では課題が残った。支援の心構えや内容の吟味はできていたが、広報や集客に苦労し、支援を届けることができなかった。待っているだけでは支援ができないため、園から積極的に持ち掛ける支援を行っていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：シバウラキッズパークにて 参加延べ人数：6名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：交番、八百屋、消防署、IHI、花屋、警備員室、肉屋、豊洲駅、魚屋、パン屋、クリーニング屋等
世代間交流	12月5日に芝生広場にてラジオ体操を実施
異年齢交流	10月17日に東京海洋大学にて学生との交流・施設見学を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉 今年度の振り返り

5歳児の在籍はなかったが、小学校との交流に努めることができた。結果としては先方の都合により、交流を実施することはできなかったが、改めて、小学校との交流の必要性や意義を全スタッフで確認・認識する機会とすることができた。

2025年度は5歳児在籍予定の為、継続した小学校とのやり取りの末、交流の機会を設けることができている。

〈2〉 具体的な連携

対象児なし、連携なし

10. 要支援児

今年度、対象児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5名	29名	12名	51名	15名	10名	22名	14名	15名	22名	13名	10名	218名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
子育てサロン	毎月第2土曜日 10:00～11:00 にて実施

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月20日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：施設長、0歳児担当、1歳児担当、2歳児担当

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）全体的に見ると多くのご家庭に満足いただいている印象であるが、その中でも数家庭に対して、至っていない点が見られた。評価いただいている点は継続・向上を目指し、至っていない点に関しては全スタッフとともに真摯に向き合い、改善に動いていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：メリーグッズ 豊洲ルーム 施設長 石原 幸太